

チャンピオンズカップ

父か母父のどちらかが日本の芝長距離 G1 を自身か産駒が勝っている種牡馬。
芝指向の要素も持っていることが大事。

そうなる理由は 2 つ

ひとつは、中京の砂 1800m はアメリカダート中距離とは一線を画すこと。
欧州的な伸びが米国ダートより要求されるため

もうひとつは、日本芝中距離 G1 種牡馬は、
他国の種牡馬と比較しても中距離での絶対的な身体能力が互角かそれ以上だから

もちろん、砂中距離競馬への適性、能力の裏付けがある血統を補うことも重要。

ティンバーカントリー、ヴァイスリージェントなどの
日本の砂 G1 の名血も併せ持つ馬がベスト。

本命はテーオーケインズ。

母父が芝長距離 G1 の名血マンハッタンカフェ。
産駒には JRA 砂 G1 勝ち馬グレープブランデー。

母系には JRA の砂で幾度もチャンピオンサイヤーになった
ジェイドロバリー、世界のストームキャット。

父はシニスターミニスター。
今年と同コース種牡馬ランキングも 1 位とは 1 勝差の 2 位。
父の母父は当レースに抜群の相性を示すヴァイスリージェント系。

以下相手にはリピーターのチュウワウィザード、インティ。

カフェアラオは外枠、砂替わりは歓迎。

ソダシの父は当レースに相性の良いヴァイスリージェント系ですが、クロフネ牝馬は芝のスプリント・マイルに優れた産駒が多い血統。アエロリットに近いタイプ。欧州指向のスタミナも問われるチャンピオンズ C には向かない血統。